

「久志小中学校の『島口劇』 伝承活動の取組」

1 学校名

宇検村立久志小中学校

2 学年・人数

小1～小6年生（計16人）、中1・3年生（計5人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年10月の1か月間 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和4年10月26日（水） 発表会のリハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年10月30日（日） 文化祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

島口劇（しまぐちげき）

今年度のタイトル「対馬丸よ、ともに未来へ」

(2) 由来

奄美大島の方言を子どもたちが大切にし、受け継いでいけるよう、島口による劇の学習を毎年行っている。今年度は、太平洋戦争中に米軍の潜水艦により撃沈された疎開船「対馬丸」の犠牲者を悼む内容を取り上げた。例年様々な題材を扱いながら、島口の伝統を子どもたちに伝えるきっかけとしている。

(3) 構成等

対馬丸事件で被害を受けた沖縄の方や、宇検村の村人役などを子どもたちが演じた。劇の内容を伝えるナレーターは、小学校高学年～中学生を中心に行った。

5 保存会や地域との連携の具体

今年は8月27日（土）に対馬丸慰霊祭がフノシ海岸にて執り行われ、式典には本校の児童生徒や職員も出席した。地域の方々にこのような機会を与えていたり、劇の内容に関する様々な史実を教えていただいたりした。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校が小中併設校ということもあり、小学1年生から中学3年生までの児童生徒が対馬丸事件について学び、ともに島口劇に取り組むということで、実態に応じた指導を行った。具体的に、小学生には対馬丸事件における当時の村民の温かさを、中学生には対馬丸事件が起こった当時の日本や世界の情勢、戦況等も含めた内容まで、学習を通して伝えることとした。

7 取組の様子



【文化祭での島口劇「対馬丸よ、ともに未来へ」の様子：令和4年10月30日】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【小学3・4年生児童】

- ・ ぼくは、ぜったいに対馬丸の歴史を忘れてはいけないと思った。なぜならこんなにひどい歴史が繰り返されてしまったら、悲しいと思ったからだ。これを文化祭の劇にすることで、戦争のひさんさを伝えたい。
- ・ ぼくは、対馬丸の歴史を一生残したい。対馬丸事件のひさんさを知らない人がたくさんいる。対馬丸事件のことを文化祭の劇にすることで、平和の意味がみんなに伝わると思う。そして、分かってくれた人たちと協力し合って、戦争をなくしていきたい。

【教職員】

- ・ 文化祭で取り上げた内容を子どもたちがそれぞれの発達段階で理解をして、ともに平和について考えることができた。取組を通して、平和のありがたさに教児ともに改めて気付くことができたと同時に、本校全体の団結力が高まったと感じる。

【地域の方から】

- ・ 毎年「島口劇」に取り組んだり、学校でも方言を使った放送等を実施したりするなど、子どもたちが方言にふれる機会を設定していただいていることをありがたく思う。
- ・ 文化祭で対馬丸事件を取り上げてもらうことで、当時の村民の温かい対応を子どもたちに知ってもらうことができたと思う。対馬丸事件という悲惨な出来事とともに村民の温かさについても忘れないでほしい。